

未来へつながる確かな安心をお届けします

肥後保険企画

2026年10月170号（毎月1回発行）

発行：肥後保険企画 株式会社 監修：渡辺 時貞

〒860-0843 熊本市中央区草葉町4-20 AIG 熊本ビル1F

Tel 096-342-6233 Fax 096-342-6390 URL <https://www.higohoken.co.jp>

定期便

check



©2010 熊本県民共済

日々の営業活動のなかで、ご縁をいただいた方々にお届けしています。

お忙しい毎日の“一息”としてお読みいただけましたら幸いです。

いつもありがとうございます。
「こんにちは！渡辺です。いつも定期便をご覧いただきありがとうございます。」
「かつて日本には「徴兵保険」という保険がありました。明治期、徴兵によって一家の働き手を失えば、家計は大きな打撃を受けました。そこで、徴兵された際に保険金を受け取る仕組みが生まれたのです。」
「しかし1945年、徴兵制度が廃止されると、その保険の存在意義も失われました。ここから分かるのは、社会が変わればリスクも変わり、保険も変わらなければならぬということです。」
「企業経営も同じ。建設業には、労災や賠償事故だけでなく、従業員の離職や経営者の不在など、さまざまなリスクがあります。」
「何を売るか」ではなく、「何から企業を守るのか」。企業の未来に潜むリスクを見つけ、備える。目指すのは、保険商品の販売会社ではなく、企業のリスクをとともに考え、「保険のことなら、まず相談してみよう」と思っていただけける存在です。」
「シルバークロニクル初日、有志を募った「熊本震災被災地ボランティア」に参加しました。」
「被災者の方々は、今も大変な思いをされているのだと実感した一日でした。」



復旧はまだ道半ば



事務スタッフの
コラムをお届けします



こんにちは！事務スタッフの吉村です。先日、熊本市西区小島にある「うさぎカフェ」に行きました。創業200年を超える老舗、「浜田醤油」の中にあるカフェです。世界的建築家の隈研吾氏設計というだけあって、高級感ある素敵な空間でした。

スタッフさん曰く、週末だと座れないこともあるそうですが、運よくこの日はゆったり過ごすことができました。注文した「寒ざらし風白玉」とコーヒーは、とても美味しかったです！みたらし風味のシロップと白玉の組み合わせで、ファンも多いそうです。

ぜひ次回は「醤油ソフトクリーム」を楽しみに、またお邪魔したいと思います！



寒ざらし風白玉セット

ALL About The ぽけん

「保険と共済、どちらが安いですか」。よく聞かれる質問です。保険も共済も、事故や病気、災害などのリスクを加入者全体で支える仕組みです。

保険は保険会社が顧客に提供するサービスであり、共済は協同組合などが組合員同士の相互扶助を基本に運営する仕組みです。根拠となる法律や監督の仕組みにも違いがあります。

見るべきポイントは、「何が起きたとき、どこまで守れるのか」です。安いことと、十分に備えられていることは同じではありません。保険か共済か。どちらが優れているという話でもありません。「そのリスクをどこまで外部に移すのか」を考えます。

保険は、何も起きなければ価値が見えにくい商品です。だからこそ、保険を「価格」だけで比べてはいけません。





ハザードマップから始める 暮らしと会社のリスク管理



今年の夏も、大雨や台風による災害が各地で発生しました。熊本県でも7月に線状降水帯が発生し、自然災害を身近なリスクとして感じた方も多かったのではないのでしょうか。

災害のたびに「ハザードマップを確認しましょう」と言われます。しかし、大切なのは地図を見ることではありません。自分の暮らしや会社に、どのようなリスクがあるのかを知ることです。



自宅なら、災害リスクだけでなく、避難場所や経路、家族との連絡方法まで確認しておきたいものです。企業も同じです。会社や工場、倉庫などを確認し、「ここが

被災したら、何が止まるのか」を考えます。建物や設備だけでなく、従業員や取引先への影響まで想定することが重要です。

そこで必要になるのがBCPです。誰が判断し、どのように事業を再開するのか。災害が起こる前に決めておくことが、事業継続につながります。

そして保険です。リスク管理は、すべてを保険で解決することではありません。まずリスクを「知る」。備えて被害を「減らす」。残った経済的損失を保険で「移す」。この三つをつなげて考える必要があります。

災害は、いつ起きるか分かりません。大切なのは、起きてから考えるのではなく、起きる前に考えておくことです。



肥後保険登山倶楽部

こんにちは、登山倶楽部の萩尾です。今回の山は雲仙岳をご案内します。

雲仙岳は島原半島に20数座ある山々の総称で主峰は普賢岳(1359m)です。1991年までは長崎県の最高峰でしたが噴火で溶岩ドームができあがり、みるみる普賢岳を追い越して平成新山(1483m)と命名され最高峰となりました。

1792年の大噴火では島原熊本合わせて1万千人の犠牲者が出たそうです。今は噴火も大人しくなり登山ができます。平成新山へは登れはしませんが間近で見ることはできます。春はミヤマキリシマ、秋は紅葉、



普賢岳山頂より平成新山を望む

冬は樹氷と年中楽しめる山です。仁田峠からは普賢岳の隣にある妙見岳へはロープウェイで行けるため絶景を気軽に楽しめる良い山域です。

ウェルビーイング推進事務局より



協会けんぽ熊本支部主催の健康経営優良法人2027申請対策セミナーに参加しました。

今年はサクラマチの熊本城ホールで行われ、今年度のポイントや変更点、今後の流れなど分かりやすく解説していただきました。

国が推す重点的な課題として、女性の健康増進、ワークライフバランス、労働時間の適正化、仕事と育児・介護の両立などが引き続き挙げられていて、ただ取り組みを実行するだけでなく、データで管理して KPI を取り PDCA を回していくことが求められます。さらにテーマ別ベストプラクティス選定など新たなアピール項



熊本城ホール

目も出てきたり、年々ハードルが高くなっている印象があります。今後も情報収集を欠かさず、自社の健康課題解決に繋がる施策を探っていけたらと思います。

あ・うん



企業も同じだ。制度やルールは組織を動かすが、最後に人を動かすのは、数字には表れない信頼ではないだろうか。本書は、昭和の人間模様を描いた物語である。同時に、時代を超えて残る「人と人との距離」を描いた物語でもある。言葉がないからこそ伝わるものがある。読み終えて、そんな当たり前のことを、あらためて考えさせられた。

向田邦子の『あ・うん』を読んで、考えさせられたのは「信頼とは何か」ということだ。今の社会では、何でも「言葉にする」ことが求められる。仕事でも、説明、共有、コミュニケーションが重視される。もちろん、それは大切なことだ。しかし、人と人との信頼は、言葉だけでは築けない。「この人なら分かってくれる」と思うえる関係には、長い時間と経験がある。

今月の読書感想文